

石橋中学校区

【目指す子ども像】

地域とつながり社会に貢献できる子ども

【実践研究課題】

教育活動全体を通じて、居がいのある学級・学校づくりを推進し、児童生徒の自己肯定感を高め、豊かな情操と道徳性を備えた、社会の中で進んでよい行いができる子どもの育成

各部会の取組

<学習指導部会>

【児童生徒の実態】

- ・小学校…明るく元気な児童が多い。学習に対する主体性や論理的に考えること、クラス全体で発表すること等に課題がある。学力差が大きい。
- ・中学校…友達の良さを認め、協力して学習に取り組める。自分の考えを論理的に思考し、表現することに課題を抱えている。数学・理科を苦手としている生徒が多い。学力差が大きい。

【部会のねらい】

- ・授業を通して、級友と意見を交流することで、自分の考えを主体的に表現できる生徒を育てる。
- ・授業を通して、居がいのある学級をつくる。

	視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組		・「読む」「聞く」「話す」「書く」を意識させ、ペアやグループ活動を活発に行い、児童生徒の思考をつなげる授業を実践する。これを通して、考えを広げたり、深めたりして、論理的に思考し、表現できる力の向上を図る。 ・5つの視点をもった「振り返り」を書くことで、思考力、判断力、表現力等の向上を図る。 ・家庭学習強調週間の実施、その後の小テストの実施を通して、児童の学力の向上を図る。 ・パワーアップノート等を活用した家庭学習の質の向上、「下野市新聞の日」を活用し、対話したり、自分の考えを論理的に表現したりする活動を行う。			
成果		・話し方、聴き方、振り返りなどの掲示物については定着している。掲示があることで、授業の流れが統一されてきている。 ・思考ツールの活用が多く見られ、生徒にも浸透している。各教科で効果的な方法で思考を「見える化」できている。思考を視覚化することで、論理的な文章を書くことにも役立っている。 ・学び合い活動を通して、児童生徒同士が自然とつながることができている。特に話し合い活動を意識的に設定することで学力向上につながっている。 ・学習計画表作成について、留意するポイントなどを共有することができた。9年間を通して、目標を達成するために具体的な計画を立てる力も養うことができています。			
課題		・今年度のテーマは「話し合い」活動。居がいのある学級作りのために、授業での課題や発問を精選する必要がある。単元や年間を通して身に付けたい学力を各教科で明らかにして、計画的に論理的な思考を伸ばす課題設定を見直す必要がある。 ・今回共有することができた、テスト計画や、自主学習ノートの作成ポイントなどについては、各校でしっかり共有を図り、学校ごとの偏りが少なくできるよう配慮する。			



思考力を高める授業展開



下野市新聞の日



思考の「見える化」



家庭学習強調週間振り返り

<道徳推進部会>

【児童生徒の実態】

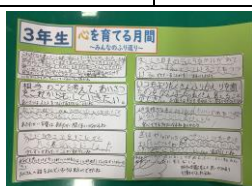
- ・素直で穏やかな児童生徒である。道徳の授業では、友達の意見を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりする様子が見られる。また、ペアや小グループの活動では自分の意見を表現できているが、一斉の場面では発表者が偏る傾向も見られる。
- ・道徳の時間に自分事として考えているが、生活の中で道徳的実践力として生かしていないことも見られる。

【部会のねらい】

- ・地域への愛着をもち、社会に貢献できる。
- ・自己開示をしながら自分を見つめ、考えを表現（話す・書く）することができる。
- ・道徳の時間を通して深めた道徳的価値への理解をもとに、普段の生活における道徳的実践力を高めることができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・心を育てる月間の各校での実施 「地域とつながり社会に貢献できる子」「心の教育」に関連させる。価値項目は各校の実態に合わせる。 - 他の部会と時期・内容の調整を図って活動を実施する。（プロジェクト委員部会、児童・生徒指導部会、特別活動部会など） ・道徳の授業の指導の工夫、見取りや評価についての情報交換 ・小中学校間の公開授業の実施
成果	・心を育てる月間が3年目となり、定着化が図れた。全校で、時期を集約し重点化することで、各校、足並みをそろえて進めることができた。その上で、各校の特性を生かした取組ができた。また、他の部会や行事と連携して取り組むことで、児童生徒への意識付けができ、深まりが見られた。 ・授業においては、学校ごとの研究が中心となったが、指導案を持ち寄って報告をしたり、公開授業、研究会へ参加したりすることで、情報交換を行い、それぞれの学校での授業力向上が図れた。
課題	・心を育てる月間の実施の成果は大きい、同時に多くのことを進めることでの負担も大きい。定着してきた取組が無理なく続けられるよう、工夫が必要である。 ・校内で公開している道徳の授業を、中学校区の教員も参加するなど、今行っている公開授業を生かしていくようにする。 ・情報共有できたことを、生かせるようにしていく。 ・子どもの感想はどうか、地域とのつながりはどうかを検証する必要がある。



心を育てる月間（道徳授業振り返り）



すてき（感謝のメッセージ）



心を育てる月間（道徳ノート）



縦割り班での話し合い

<児童・生徒指導部会>

【児童生徒の実態】

- ・不登校傾向の児童生徒が増加しており、学年が上がるにつれ、家庭的な難しさや、心の悩みを抱える生徒、保護者からのサポートを得ることが難しい家庭が多い。
- ・人間関係が希薄で、ちょっとしたことを気にし、傷つき、トラブルやいじめに発展するだけでなく、関係修復に時間がかかる場合がある。

【部会のねらい】

- ・学級内や集団内の人間関係に目を向け、自他ともに尊重できる。
- ・学級の良さに目を向けて、学級や学校に居がい感をもつことができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・いじめ防止月間（6月、11月）に合わせて、人間関係作りや互いの良さを認め合う活動を行う。 ・学級内の「つながり」や「輪」を意識し、いじめ防止に目を向けた取り組みを発信する。（発達の段階に合わせて） ・教育相談やいじめアンケートを通して、実態把握や児童生徒理解に努める。 ・生徒指導いじめ報告書を共有することで、各校の現状把握やいじめ対応について共通理解を図る。
成果	・各校でいじめ防止月間に工夫された活動を行うことができた。特に保護者を巻き込んだ活動や、参観などに合わせて公開、共有していくことで成果を広げていくことができていた。「すてき（葉に模して互いに感謝のメッセージを記し、木の周りに貼付するもの）」や「素敵すぎるよ展」など全校の目に触れる形での掲示が効果的であった。人権集会と重ねて「アドじゃん（じゃんけんを通じたコミュニケーション活動）」や「ありがとうカード」を行うなど今後につながる活動も多く共有することができた。 ・いじめアンケート後の取組も共有することができた。「情報共有シート」やアンケートで挙がった事案を児童・生徒指導部会で共有するなど、今後各校での取組を見直す機会となった。 ・夏休みにいじめ事案の共有をしてからは、各校でいじめ報告書作成に対する意識が向上した。児童・生徒指導部会でのいじめ事案の書類共有、「情報共有シート」を利用したの全体周知など各校の取組から対応について学び合うことができた。

課題	・今回の一番大きな成果はいじめ事案の共有である。改めて各校が全校体制で取り組むべきことであることや、基準を再確認することができた。 ・人間関係作りや互いの良さを認め合う活動やいじめアンケートの共有方法など各校での取組を共有できたが、小中の違いもあり、それを一律にすることはできないが、来年度は今行っている活動の中で5校共通の取組を作ってもいいのかなと思えた。
----	--



素敵すぎるよ展



アドじゃん



ありがとうカード



学級力アンケートの活用



すてき

<特別支援部会>

【児童生徒の実態】

・学校生活、集団生活に適応して生活できている児童生徒が多いが、集団に適応できず特別な支援を要する児童生徒は、年々増加傾向にある。

【部会のねらい】

・自分の特性を知り、よさを伸ばそうと進んで行動することができる。

	視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組	・特別な支援が必要な児童生徒に対する効果的な支援や具体策の情報交換を行い、指導方法や目標などの事例を示す。 ・各校の特別支援学級の交流会を実施し、自分のよさに気付かせ、自己有用感を高める。				
成果	・合理的配慮の具体例を出し合い、支援の方向性を再確認しながら一つの表にまとめることができた。 ・特別支援学級の交流会を2回実施したことで、昨年度よりも交流が深まり、自分や友達のよさに気付くことができた。				
課題	・限られた時間の中で合理的配慮の具体例を精選することが難しかった。より良いものを作ろうとするとどうしても時間が必要になってくる。活動内容の精選が必要である。 ・交流会を2回行うには日程の調整や市有バスの予約、実施計画の作成など、十分な準備が必要で、時間的にも担当学校の負担が大きかった。成果は十分にあったが、継続するには再検討が必要である。				



小中合同レクリエーション



注意欠陥多動性障害の児童生徒の教育における合理的配慮

<健康増進・食育部会>

【児童生徒の実態】

・長引くコロナ禍により、基本的な生活習慣が乱れてしまう児童生徒がいる。
・歯科医院への受診控えや学校での昼食後の歯みがきがなくなったことにより、むし歯がある児童生徒の割合が増加している。
・市の課題である朝食摂取状況について、石橋中学校区の「毎日食べる」割合は87.5%で前年度と同じ数値を維持しているが、「朝食とおかず」を食べている割合は59.3%と、前年度62.7%より減少している。(令和5年10月調査)

【部会のねらい】

・望ましい生活習慣を確立することができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・児童生徒自身で、自らの健康生活を振り返り、正しい生活習慣の確立を目指す指導を行う。 ・「いしばし元気っ子週間」を実施し、石橋中学校区全体で「口腔内の健康」について、共通した指導を実施する。 ・朝食指導について、学年に応じて継続して実施する。 ・年1回、健康増進・食育部会だより「いしばし元気っ子」を発行し、家庭への啓発を図る。
成果	・昨年度に引き続き、各校共通して「いしばし元気っ子週間」を実施し、「口腔内の健康」について、校内での指導、家庭での取組を行い、家庭との連携を図ることができた。 ・健康増進・食育部会だより「いしばし元気っ子」を発行し、家庭への啓発を行った。 ・朝食指導について、各学校で学年に応じた指導を継続して行った。
課題	・下野市で実施の朝食アンケートで、石橋中学校区全体として、朝食を毎日食べる児童生徒の割合が85%となり、昨年度の割合（87.5%）から若干低下した。また、「朝食とおかず」を食べている割合は56.8%と、前年度59.3%より減少した。朝食指導において、引き続き学年の実態に応じた指導を行い、喫食率の向上、内容の充実を図れるようにする。 ・「いしばし元気っ子週間」を定着させ、児童生徒自身で自らの健康生活を振り返ることができる指導を継続して行う。 ・来年度は食事のマナーについての取組を行う予定。



歯磨き指導



健康指導（けがの防止）



食育指導



健康増進・食育だより

<特別活動部会>

【児童生徒の実態】

- ・小学校・・・明るく素直な児童が多い。誰とでも仲良くしようとする意識はもっているが、関係性を広げたり、深めたりすることが苦手な児童への支援が課題。
- ・中学校・・・行事や協働学習に前向きに取り組む生徒が多い。その反面集団行動が苦手な生徒やコミュニケーション不足の生徒の支援が課題。

【部会のねらい】

- ・昨年度に引き続き、「学級力アンケート」を活用し、学級の課題を見付け、話し合いを行うことによって自己有用感やコミュニケーション能力を高めていく。児童生徒が自分の学級に居がいを感じ、安心して周囲とつながりをもつことができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・学級力アンケートを年に2回実施し、自分の学級に居場所をつくれるようにする。学級力アンケートの結果を基にした話し合い活動(学級活動)とその取組を行う。 ・石橋中学校区の小中学校でキャリアパスポートの共有、情報交換を行う。 ・子ども未来プロジェクトとの連携を行う。
成果	・学級力アンケートの結果を活用した取組の中で、児童生徒の自主性やクラス全体の連帯感が向上する様子が確認された。例えば、子どもたちが主体的に課題を話し合い、より良いクラスを目指して具体的な行動を起こすようになったことが挙げられる。特に、繰り返し行われたスマイルアクションでは、その内容が年々工夫され、成長の跡が見られた。また、小中一貫教育の取組として、中学校の活動を参観する機会を設けたことで、小学生たちは自分たちの成長を感じることができた。 ・小中でキャリアパスポートの枚数などの共通理解ができた。 ・新しく「輪」という取組を行ったが、生徒たち自身が「輪」を意識した取組を行うことそのものが、いじめ対策につながると考え、主体的に活動することができた。また、小中での連携を盛り込み、石橋中学校区全体の「輪」の意識を高めることができた。
課題	・一部の項目で成果がマンネリ化する傾向や、課題以外の分野で伸び悩む傾向が見られた。これらを解決するためには、新しい視点や方法を取り入れた継続的なアプローチが必要とされる。 ・キャリアパスポートの枚数等の統一を図ったことで今後どのような運用をしていくか検討が必要である。 ・オンラインでの交流や校内での活動が多く、また中学校主導になってしまい、小学校の意見を中々取り入れることが難しかった。次年度は、参加生徒、教師、市教委の担当者が一堂に会し、より「目に見える・肌で感じることのできる交流」をしていきたい。



話し合い活動（中学校）



話し合い活動（小学校）

<体力増進部会>

【児童生徒の実態】

- ・新体力テストの結果において投力の数値が全国平均を下回る傾向にある。
- ・体育の授業や行事には積極的に取り組む児童生徒が多い。しかし、外遊び等自ら体を動かすことに前向きではない児童生徒も少なからずおり、その中の児童生徒の多くが運動習慣が身に付いていなかったり、運動に苦手意識をもっていたりする。

【部会のねらい】

- ・新体力テストの記録の向上を成果指標とし、よりよい体力向上の指導につなげる。
- ・児童生徒が「運動が楽しい」「運動したい」という関心意欲をもつことができる。
- ・運動に親しむ習慣を身に付けさせる。（外で遊びたくなるような工夫、教科体育での運動量の確保、業間運動や遊具の工夫）
- ・小学校、中学校間のギャップを埋める。

	視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組		・小学校から中学校のギャップを軽減するために、石橋中学校区統一の体操を行う。 ・各校で、教科体育や業間、昼休み等を活用して体力向上への取組を行う。 ・運動に親しむ習慣を身に付けるために、休み時間における児童生徒の外遊びの機会を増やすよう、教員が外での運動を児童生徒に呼びかけたり、教員自ら外遊びに加わって運動する楽しさを共有したりする。			
成果		・新体力テストの検査項目につながるような体操を考えたため、体操の段階で運動量が確保できた。 ・「スピード」「全身持久力」「瞬発力」「巧緻性」「筋力」「筋持久力」「柔軟性」「敏捷性」等の評価項目を体操で網羅できる。→教科体育で毎時間実施するので、動かし漏れがない。 ・特に6年生においては、中学校でも同じ運動をすることによって意欲付けになっていた。 ・児童生徒から「短時間で体操が終わり、種目に使える時間が増えた。」「短時間でウォーミングアップができるのいい。」など、前向きな意見が多く見られた。 ・体操を考える → 考えた体操を実施 → 改善点の洗い出し → よりよい体操へのようにサイクルをつくることができた。			
課題		・実施して間もないため、各校の取組具合にばらつきがあった。また、運動会の時期と重なったため、ラジオ体操を実施している学校もあり、新しい体操の実施が難しいときがあった。そのため、全校で統一とはいかなかった。 ・それぞれの動きが何を目的とした動きなのか、各動作のポイントは何かなどの情報が足りなかった。そのため、各動きのポイントを意識させて体操させることが難しかった。 ・曲やテンポが定まっていなかったため、リズムや動きの順番が難しかった。今後は、体操のビデオ撮影をし、各校が動画を見ながら動きの確認をすることで統一を図っていきたい。			



体づくり運動



器械運動



体づくり運動



走・跳の運動

<地域連携部会>

【児童生徒の実態】

- ・徐々にコロナ以前の様子に戻って来ているかもしれないが、コロナ禍となり、地域の行事に参加する機会が減り、地域とのつながりが薄れてきている。

【部会のねらい】

- ・地域に貢献することができる。
- ・地域の方々に感謝の気持ちをもつ。

	視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組		・地域との関わりが薄れてきている今、地域及び校内のクリーン活動（除草）を行うことで、地域及び校内への愛着をもたせる。			
成果		・今年度はポスターを作成して自治会等の回覧板でも周知し、地域に広がりが見えてきた。（学校運営協議会委員の方を含め、4つの小学校で30名ほどの方が参加して下さった。）			
課題		・今年度はポスターで地域への周知を図ったが、来年度以降もどのように地域を巻き込んでいくのが課題。（平日の午前中なのでなかなか人が集まらない。令和7年度は、11月19日（水）にクリーン活動を開催予定。）			



小中交流クリーン活動（古山小）



小中交流クリーン活動（細谷小）



小中交流クリーン活動（石橋小）



小中交流クリーン活動（石橋北小）

【成果と課題】

《石橋中学校区としての成果指標》

〈知〉全国学力・学習状況調査（国語）の思考・判断・表現「B書くこと」に関する問題

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果より

記述式問題の平均点（中3時点）

「B書くこと」に関する問題	石橋中学校（中3）平均	県平均	全国平均
	51.9点	47.4点	45.5点

※記述式問題の無解答率

話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く。	石橋中学校（中3）平均 3.9%	県平均 8.1%	全国平均 9.9%
本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。	石橋中学校（中3）平均 3.9%	県平均 7.2%	全国平均 8.4%
表現を工夫して物語の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。	石橋中学校（中3）平均 8.4%	県平均 12.9%	全国平均 15.0%

・記述式問題の平均点は県平均や全国平均と比べて高く、無解答率は県平均や全国平均と比べ低いことが分かった。「書くこと」を意識して、小学校から継続して指導を行ってきた成果が現れている。今後も、国語に限定せず、全教科で思考力・判断力・表現力が身に付くように連続した指導をしていくことが重要である。

〈徳〉 ①自分には良いところがあると思う。

②周りの人にやさしくしている。

①の結果

【学校評価】自分には良いところがあると思う。	小学校（4校）平均	中学校平均
	84.6%	88.5%

②の結果

【学校評価】思いやりをもって生活している。	小学校（4校）平均	中学校平均
	91.4%	91.7%

・小学生より中学生の方が自己有用感が高まっていることが分かった。小学生のうちからさらに自信を深められるような指導に努めたい。また、多くの児童生徒が周りの人にやさしくしていることが分かった。

〈体〉 ① 新体力テストのソフトボール投げの数値

② 新体力テストの柔軟性の数値

令和6年度 新体力テスト 結果より

①の結果（ソフトボール投げ）※中学校はハンドボール投げ

	小学6年男子	小学6年女子	中学3年男子	中学3年女子
石橋中学校区平均	22.88m	15.99m	22.58m	13.31m
県平均	23.45m	15.72m	22.73m	13.87m
全国平均	25.39m	15.22m	23.8m	14.05m

②の結果（長座体前屈）

	小学6年男子	小学6年女子	中学3年男子	中学3年女子
石橋中学校区平均	34.45cm	41.94cm	42.41cm	48.85cm
県平均	34.48cm	39.45cm	47.78cm	47.95cm
全国平均	36.61cm	41.14cm	49.23cm	49.39cm

・ソフトボール投げや柔軟性の数値を県平均や全国平均と比べると、小学校6年生女子を除き低いことが分かった。引き続き、投力や柔軟性を重点項目として、今後も小中一貫した体力向上策を検討していく必要がある。

○成果

- ・各部会のねらい達成のために意欲的な取組が見られ、全体研修会での実践研究の発表において共有することができた。
- ・9年間を見据えた活動になりつつある。
- ・小中学校で共通した活動（体育における準備体操、キャリアパスポートの内容等）が多くなってきた。

●課題

- ・各部会の部員が毎年代わるため、前年度からの引継が重要である。
- ・学区が広いので、児童・生徒の小中交流活動の際には注意が必要である。（事故防止、時間設定等）
- ・成果指標をさらに意識した取組にしていきたい。